

創団30周年に寄せて 登戸混声合唱団 指揮・指導 片野秀俊

1980年11月、前月新築なったばかりのイノウエホールに12名(女性10、男性2)のメンバーが集めた登戸混声合唱団誕生の第1歩だった。互いに自己紹介をし、私は、これからどう歩いていくか見当もつかないこの小さな集団に少しばかりの将来の夢を語ったものだった。私が丁度30歳の誕生日を迎えて間もなくのことである。



団誕生のいきさつは次のような経過による。当時私は日本合唱協会(日唱)でコンサート・マスター兼団内指揮者を勤めていたが、他に混声合唱団「四季」を24歳から、郡山「はもる・かい」を25歳から、「ひびき混声合唱団」を27歳から、そして女声の「こーろ・えれがみつあ」を29歳から指揮していた。その「ひびき」に向ヶ丘遊園に住む若い女性メンバーのAさんがいた。参宮橋の練習場から小田急線の中で、彼女は盛んに「登戸近辺には混声合唱団がない。是非登戸でも混声合唱団を創って指導して欲しい」と何度となく熱く語ったのだった。その熱意に私もついに決心し創設に踏み出したのだが、当時遊園に住みついて6年の私にとって人集めは、そう簡単なことではなかった。

まず多摩市民館で成人学級を開いてもらいそれを基礎としようと思いたち、かけあつた結果、上々の手ごたえを得たのだが、結局“夜の成人学級はお手伝いする職員が帰ってしまうので不可能”という結論になってしまった。しかたなく地元の女声合唱団で歌っていてAさんとも親しかったKさん、そしてその友人のIさんに力を借り、知り合いに声をかけ、募集のチラシを配り、情報誌に載せたりして半年余りをかけ、集まった12名での結団式となったのである。やっとのことでこぎつけた創団だったがそれからの数年は実に大変な日々だった。まずは練習場の確保だが、人数も少なく貧しい運営費の中からの算出は難しい。登戸の小さな教会や遊園のカワイ等、あちらこちらをわたり歩いた。しかし何よりの苦労は団員の減少だった。私は、将来を見据え基本をしっかり身につけてほしいと思いアカデミックな指導を貫いたが“ただ集まって何か歌っていればそれで充分”というメンバー達には面倒くささの方が先だったようだった。もともと「一寸顔を出してみようか」という人が多かったのも事実である。1年半も経つ頃には人数は5名になりやがて3名になった。こうなると合唱どころではなかったが、それでも毎週集まっては何かやっていた。そして親睦のためと称して毎週飲んでた。創立数カ月で入団した高松君は当時団長をしていて、僕が手を引いてしまわないように毎週僕を遊園中の飲み屋へ連れ回した。酒につられた訳ではないが、僕の粘りも強かっただろうし、高松君の頑張りは大変なものだったと思っている。そうこうしているうちに少しだけ人も増え出し、10名を越えた3年目の頃だろうか、根村現団長が颯爽と入団してきたのである。それからも様々な苦労はありながらも、少しずつ発展の道をたどった経過については、又の機会に譲ることとしよう。

ところでこれだけは知っていてほしい。団命名のいきさつである。私は始めから「登戸混声合唱団」の名を思い描いて提唱したのだが、当時の団員からは一斉に反対されてしまった。理由は“「登戸」なんて田舎くさくてとんでもない”“ダサイ”というのだ。しかし私は懇々と説得した。『当時、関屋晋さんが指揮をしていた「松原合唱団」は井の頭線の松原で始まったから、「湘南市民合唱団」はほそぼそと湘南の街で始まったから、しかし今やどちらも全国的にその名を轟かすすばらしい合唱団である。団が立派になれば名前も付いてくる。登戸の地に誇りを持って、この名前が、多摩区から川崎市へそして神奈川・東京・全国に鳴り響く団にしよう』と。漸く皆も分ってくれて誕生した「登戸混声合唱団」なのである。今や規模も実力も少しは、認められる団に発展してきたと思っているが、夢は限りなく、より高く永遠の青年の如く燃え続けて行きたいと切に願っているこの頃である。

●1980年代の“のぼこん”

1982年、私は長年空白だったコーラスを再開しようといくつかの合唱団を見学。見学した中で一番小さなグループ“のぼこん”で片野先生に巡りあい、感じるものがあって、ご指導を受けることに決めました。メンバーは10人足らず、洋裁学校の一室や小さな教会が練習場でした。当時の団長は高松昭一さん。この時期を持ちこたえるのは大変なこと。おかげで今の“のぼこん”があります。数年して、高松さんは職場や家庭の都合で休団され、私が団長を引き受けることになりました。



●チャリティコンサートを始めたいきさつ

少しずつメンバーがふえ、合唱仲間の協力を得て、1988年に第1回の演奏会を開催。当時、合唱コンクール全盛の時代で、片野先生指導の合唱団の多くは何らかの賞を得ていました。が、“のぼこん”にはそれに参加する力もなく、演奏会は成功したものの、なにかもの足りなくて、意気消沈していました。何とか打開策をと模索していた時、

- ・演奏会で地域の方々にお世話になったこと
- ・地域の名を持つ団として、何かお役にたちたいこと
- ・メンバーの何人かが、福祉関係の仕事に就いていたこと

などから、チャリティコンサートを企画したのです。チャリティという言葉も一般化していない時代、団員は「ムリ、ムリ」と消極的でしたが、片野先生は「出来るよ」と背中を押し“ひとひらのあいコンサート”と名づけてくださいました。この片野先生のひと押しがなければ、このコンサートは生まれてなかったかもしれません。

当時の大村昌良副団長をはじめ、殆どの団員は仕事を持っていたため、コンサートの下準備はすべて自由業の私の肩に。暑い盛りを、多摩・麻生・川崎と、一人で歩き回ったその苦労は言い尽くせないものがありますが、それはまたそれとして…。7月に演奏会、12月にチャリティコンサートは、当時の“のぼこん”にとっては無謀なことと思われましたが、団員は片野先生のご指導のもと、新しいプログラムに夢中で取り組んだのでした。限られた紙面なので、時代は一気にとびますが…。

●最近の“のぼこん”の活動

あれからチャリティは今年で24回目、今は優秀なメンバーも揃い、当時のことを思うとそれこそ夢のようです。24年間、ずっと応援してくださった方々、親子2代や3代(お孫さんも)でコンサートに来てくださる方々、ご後援いただいている多くの団体、20年近く無償で会場全員分の商品を提供し続けてくださる花王kk様には、ただただ感謝あるのみです。コンサートで募金を行い、ご芳志の全額を川崎市社会福祉協議会に寄託してきた金額も累積2,952,196円となりました。1995年、NYカーネギーホールでの演奏と、川崎市の姉妹都市ボルティモアで現地合唱団とのジョイントをしたアメリカで始まった海外演奏は、フランス・イタリア……今年3月のオーストラリアまで、9回・12カ国・17都市を数えます。また、地域での活動としては、2005年に片野先生を理事長として多摩区合唱連盟を立ち上げたこと、外国の合唱団を招いてコンサート開催、合唱セミナー主催、防災週間に出演など。最近では和楽器オーケストラとの共演もあり、駅コンも始めるなど、他にも書ききれないほど、合唱団としては幅広い独自の活動を、元気に続けています。

30年間、音楽指導にとどまらず、常に団に寄り添い、時には叱咤激励、時には慰めてくださり、今日の“のぼこん”を育ててくださった片野先生。チャリティを始める時、苦労を共にした当時の大村昌良副団長、12年もの長い間、至らない団長をサポートし、団をまとめてくれた山吉一成副団長、めぐり会えたすばらしいメンバーは、この合唱生活で積み重ねられた“のぼこん”の、見えないけれど大きな財産です。

演奏曲について

解説: 山吉一成

演奏 : 登戸混声合唱団
 指揮 : 片野秀俊
 ピアノ : 井熊康子(下記以外の全曲)
 矢野令子(2001年チャリティコンサート)
 古川佳園(沖縄での友好演奏会)

No.1

☆アカペラ

	曲名	作曲	演奏年	演奏会
1	Hodie	グレゴリオ聖歌	2010	チャリティ*
2	Ave Maria	グレゴリオ聖歌	2010	チャリティ
3	Ave Christe	Josquin des Prés	2005	チャリティ
4	Super flumina Babylonis	G.P.da Palestorina	2008	チャリティ
5	O Quam Gloriosum Est	T.L.Victoria	2009	チャリティ

*演奏会 チャリティはチャリティコンサートの略

- チャリティコンサートの 第1ステージは、毎年グレゴリオ聖歌とルネッサンス時代のア・カペラ曲。柔らかく澄んだ音色できれなハーモニーで歌うことが大切。
- グレゴリオ聖歌は、西洋音楽の源。各地の教会で歌われていた聖歌が、ほぼ今の形に統一されたのが、約1千年前。素朴な単声のメロディで、神を讃える祈りの歌。[1] Hodieは、キリスト誕生を祝った曲。[2] Ave Mariaは聖母マリアを称える曲。2曲ともチャリティコンサートで一番多く歌ってきた曲です。
- 中世になると、グレゴリオ聖歌の上下にメロディをつけた多声音楽が生まれ、ルネッサンス時代にはこれが大きく発展して、一つのテーマを4つの声部がいろいろな形で夫々展開していくポリフォニー音楽の花が開きました。アカペラで歌われるこの時代の合唱曲は、合唱曲の原点とも言われています。石造の教会の高い天井に響く歌声は、まさに天使の歌という感じ。
- Josquin des Prés(1440頃-1521)は、フランドル地方に生まれ、ローマを始めイタリア各地で活躍した初期ルネッサンス音楽を代表する作曲家。
[3] Ave Christeは彼の代表的なモテット。
- G.P.da Palestorina(1525-94)はルネッサンス期イタリアを代表する作曲家。分りやすく整った作曲技法はその後のカトリック作曲家のお手本と言われました。
[4] Super Flumina Babylonis(バビロン川のほとり)は詩編によった有名なモテット。
- T.L.Victoria(1548~1611)はルネッサンス期スペインを代表する作曲家。
[5] 聖職者として、生涯ミサ曲・モテット等宗教曲のみを作曲しました。

☆海外

	曲名	作曲	作詞	演奏年	演奏会
6	Let there be Peace on Earth	J.Jackson・S.Miller		2009	チャリティ
7	La Cansoun de la Coupo	プロヴァンス民族歌		2009	チャリティ
8	Allilouia	G.Hadjinasios	N.Gatsos	2009	チャリティ

- 登戸混声合唱団は、1995年から2010年までに、8回海外演奏旅行に出かけ、11カ

国・16都市で、現地の合唱団と親善演奏会を持ってきました。夫々に多くの思い出がありますが、現地での印象が強く、帰国してからも歌った曲を収録しました。

- [6] アメリカ。1995年、第1回の演奏旅行。ボルティモアでの合同演奏曲。ニューヨークでの「9.11」追悼式にも歌われた曲。平和を願う気持ちは世界共通です。
- [7] フランス。1997年。第2回。マルセイユでの合同演奏。歌い始めると、最前列にいた市長はじめ全聴衆が立ち上がって唱和した非常に印象深い曲。南フランスにおける第2の国歌といわれる歌です。
- [8] 2004年。第5回。シチリア島を回って、ギリシャのアテネ。海浜のレストランの2階が演奏会場。現地の合唱団の歌うAllilouia。聞いてるうちに私どもも歌いたくなった曲です。

☆特別記念演奏

	曲名	作曲	作詞	演奏年	演奏会
9	U.BOJ (合同演奏)	Ivav Zajc	F.Markovic	2007	リエカ

- [9] 日本で男声合唱曲として有名なU.BOJは、クロアチア防衛戦争の英雄を讃えるオペラの中の1曲で、クロアチアの第2の国歌とされています。
- 2007年、川崎市とクロアチア国リエカ市との姉妹都市締結30周年記念式典がリエカ市で行われ、阿部川崎市長が出席しました。その記念演奏会に登混が招聘され、現地での合同演奏の録音。録音状況はよくないが、特別記念として収録した。翌2008年春、クロアチア大統領が来日した時に、帝国ホテルでの歓迎レセプションで川崎市からのプレゼントとして歌ったことも記憶に新しい。

☆ポピュラー

	曲名	作曲	作詞	演奏年	演奏会
10	見あげてごらん夜の星を	いずみたく 編曲:佐藤亮子	永六輔	2006	チャリティ
11	地上の星	中島みゆき 編曲:佐藤亮子	中島みゆき	2006	チャリティ
12	手紙	アンジェラ・アキ	アンジェラ・アキ	2008	チャリティ
13	山のいぶき	川崎祥悦	松前幸子	2008	チャリティ
14	好きですかわさき 愛の街	山本直純	肥後義子 補:石本美由起	2008	チャリティ

- チャリティコンサートではポピュラー曲もよく歌いました。1998年には、中村八大作品や宮崎駿のアニメ曲など6曲。収録した曲以外にも思い出深い曲がいくつかあります。
- [10]「見あげてごらん夜の星を」 チャリティコンサートを始め、海外・合唱祭などでも一番良く歌ってきた曲です。とても歌いやすく、聴きごたえのある編曲です。
- [11]「地上の星」 2006年、中島みゆきが紅白で歌った年のチャリティで歌いました。
- [12]「手紙」 NHKの合唱コンクールの課題曲として、大変人気が出た歌です。
- [13]「山のいぶき」 この年は、「手紙」「旅立ちの日に」など若い人の歌の特集で大いに若返りました。
- [14]「好きですかわさき 愛の街」は、毎年チャリティコンサートの「みんなで歌いましょう」で団員が舞台の前列に1列に並んで、会場の皆さんと一緒に歌う歌です。最近では、会場からの歌声も大きくなってきました。

☆クリスマス・ソング

	曲名	作曲	作詞	演奏年	演奏会
15	主よ、人の望みの喜びよ	J.S.Bach		2010	チャリティ
16	Hallelujah	F.G.Handel		2007	チャリティ
17	赤鼻のトナカイ	J.Marks 編曲:増田順平	訳:新田宣夫 補:しの・かおる	2010	チャリティ
18	ママがサンタにキスをした	T.Conner 編曲:増田順平	漣健児	2010	チャリティ
19	We wish you a Merry Christmas	イギリス民謡		2007	チャリティ
20	Amazing Grace	編曲:ED.Lojeski	John Newton	2010	チャリティ
21	まぶねの中に	安部正義	由木康	2003	チャリティ
22	いつくしみ深き	C.C.Converse	Joseph.Scriven	2009	チャリティ
23	聖夜	F.Gruber	訳詩:由木康	2010	チャリティ

- チャリティコンサートの最後のステージは、クリスマス・ソングです。楽しいクリスマス・ソング中心ですが、バッハやヘンデルも歌うのが、登混の特色といえましょう。
- [15] バッハの「主よ 人の望みの喜びよ」カンタータ147番「心と行いといきざまもて」バッハのカンタータの中でもっとも有名で、ピアノの伴奏も素晴らしい名曲で
- [16] ヘンデルのメサイヤも殆んど毎年歌っています。Hallelujahのほかに、No.4、No.12、No.46なども歌ってきました。
- [17・18・19] クリスマスソングの中で、この3曲は歌っていてとても楽しくなる曲です。聴いている人も楽しくなっているようです。
- [20] Amazing Graceは、特に女性を中心に人気の高い曲で何度も歌って来ました。2010年は、ゴスペル調の楽しい編曲です。アンケートの評判も良いようです。
- [21] クリスマスには讃美歌も欠かせない存在です。「まぶねの中に」は日本人の作曲した数少ない讃美歌の中でもっともよく歌われている曲です。
- [22] 「いつくしみ深き」は、日本で「星の界」という題名で別の歌詞が付けられ、中学唱歌にとりいれられたことから、広く知られる曲となっています。
- [23]「聖夜」キャンドルに点灯すると、今年もいよいよ終りという気持ちになります。

No.2

☆地球ばんざい

	曲名	作曲	作詩	演奏年	演奏会
1	どうしてだろうと	鈴木憲夫	まど・みちお	2004	チャリティ
2	きこえてくる	鈴木憲夫	まど・みちお	2004	チャリティ
3	よるのみち	鈴木憲夫	まど・みちお	2004	チャリティ
4	いきもののくに	鈴木憲夫	まど・みちお	2004	チャリティ

- 2004年、登混の25周年記念として、鈴木憲夫先生に委嘱して作曲して頂いた組曲です。登混の第1の財産です。川崎市在住の、まど・みちおさんの素晴らしい詩に作曲された4曲。その年のチャリティコンサートで一生懸命歌いました。
- その後カワイ出版から出版され、各地の合唱団で歌われているそうです。
- 2010年の第8回アミーチ演奏会で、池袋の東京芸術劇場で歌いました。

☆日本の歌

	曲名	作曲	作詞	演奏年	演奏会
5	ふるさと	岡野貞一	高野辰之	2005	チャリティ
6	富士山	文部省唱歌	巖谷小波	2005	チャリティ
7	さくら	日本古謡 編曲:佐藤亮子		2002	チャリティ
8	だんじゅかりゆし	沖縄民謡		2001	チャリティ
9	さとうきび畑	寺島尚彦	寺島尚彦	2001	チャリティ

- 最近の教科書から、日本の歌が消えているということを聞きますが、悲しいことです。私達が小さい時から、聴き、歌ってきた素晴らしい歌を是非日本の財産として残していきたいものです。登混の海外演奏旅行の持ち歌で「日本の歌」を数曲演奏します。海外の方もよく聴いて下さいます。
- チャリティコンサートのステージで歌うことは少ないですが、「みんなで歌いましょう」では、「かあさんの歌」「ふるさと」などを会場の皆さんと一緒に歌っています。
- 「8・9」 2001年3月、沖縄・那覇市の「あけもどろ文化祭」に参加し、現地合唱団と合同友好演奏会を持ちました。その時一緒に歌った曲、帰ってから歌った曲。団員の殆ど全員が参加した、大変印象深い演奏旅行でした。

☆島よ

	曲名	作曲	作詞	演奏年	演奏会
10	3 降りしきる雨の中で	大中 恩	伊藤海彦	2010	チャリティ
11	4 波の果て	大中 恩	伊藤海彦	2010	チャリティ

- 2005年、2006年と練習の中心は「島よ」でした。この歌を歌うために登混に一時入団した人もいました。
- 曲ごとに変化もあり、歌いがいのある名曲です。2010年の「多摩区コーラスの集い」は、講評者に大中先生をお迎えし、この2曲を思い出しながら歌いました。

☆旅

	曲名	作曲	作詩	演奏年	演奏会
12	4 なぎさ歩めば	佐藤 眞	山之井 慎	2010	コーラルフェスト*
13	7 行こう ふたたび	佐藤 眞	田中清光	2010	コーラルフェスト

*コーラルフェストは川崎市合唱連盟が毎年2月に行う連盟加盟団体の合唱祭

- 2009年の「多摩区コーラスの集い」の講評者に佐藤眞先生をお迎えし、1.「旅立つ日」とこの2曲をあわせて3曲を歌いました。打上げには、佐藤先生も参加され、楽しく盛り上がりました。翌2010年の「コーラルフェスト」にも歌い好評を頂きました。

☆水のいのち

	曲名	作曲	作詩	演奏年	演奏会
14	1 雨	高田三郎	高野喜久雄	2001	沖縄*
15	2 水たまり	高田三郎	高野喜久雄	2001	都民コンクール**
16	3 川	高田三郎	高野喜久雄	2001	都民コンクール
17	5 海よ	高田三郎	高野喜久雄	2001	沖縄

*沖縄 沖縄・那覇の「あけもどろ文化祭」に参加。

**都民コンクールは、東京都が主催した合唱コンクール。2005年に廃止。

- 2000年、2001年は都民合唱コンクールに出場するための猛練習が続きました。曲は「水のいのち」。2000年夏、軽井沢合宿を行って、「5.海よ」を歌いましたが、奨励賞一步手前。2001年は、「2.水たまり」「3.川よ」を歌って奨励賞を受賞しました。この2年間の練習で随分レベルアップしたと思います。
- 「水のいのち」は、海外公演の時のメイン曲です。音楽は世界共通の言葉。歌詞は解らなくとも感動して聞いて頂けます。

☆心の四季

	曲名	作曲	作詩	演奏年	演奏会
18	1 風が	高田三郎	吉野 弘	2002	チャリティ
19	2 みずすまし	高田三郎	吉野 弘	2002	チャリティ
20	4 山が	高田三郎	吉野 弘	2003	都民コンクール
21	6 雪の日に	高田三郎	吉野 弘	2003	都民コンクール

- 2001年、2002年の練習の中心で、2回に分けて、チャリティコンサートのメイン曲になりました。
- 2003年の都民合唱コンクールに「4.山が」と「6.雪の日」を歌いました。朝一番という悪条件に関らず奨励賞を受賞しました。

あとがき

- ☆ 私が入団したのは、1996年1月。団員十数名。男声はバス4名でした。2000年、団員が30名を越え(男声9名)、片野先生「都民合唱コンクールに挑戦しよう」2001年、2003年と奨励賞を受賞しました。この時の徹底した練習でレベルが飛躍的に向上しました。2004年の25周年記念、鈴木憲夫先生から素晴らしい委嘱曲を頂きました。1988年に始めた年末のチャリティコンサート、2010年は第23回、大勢の方に来て頂くようになりました。1995年から始めた海外演奏旅行。2011年春で9回。国境を越えて響く歌声の素晴らしさに感動。今、団員40名を越えて迎えた30周年。鈴木輝昭先生に委嘱曲をお願いしています。
- ☆ ここまで団を育てて下さった片野先生、そして寝食を忘れて団の発展に尽くしてこられた根村団長に心から感謝申し上げます。また同時に、素晴らしい団員に恵まれたこと有難く感謝します。
- ☆ 30周年の記念に、今までの演奏CD約200曲の中からジャンル別に選んで2枚のCDにまとめました。No.1は、チャリティコンサートの形式に沿った曲目構成です。No.2は、鈴木憲夫先生の委嘱曲をトップに、取組んできた合唱曲から選びました。
- ☆ 「30年の歩み」。前半は25周年の時、団史を作る予定で開いた古い団員の座談会をもとにしました。1997年以降は、「登混だより」から主な行事を選び出しました。
- ☆ 片野先生からは、創団と団命名のいきさつ、創団時の苦労話等、又、根村団長からは、入団から第1回演奏会やチャリティコンサートを始めた頃からの発展のお話を頂きました。
- ☆ このCD作成に当たって、宮村寛氏、細野文夫氏に多大のご協力を頂きました。また野村勇雄氏、渡部信子氏から、いろいろと貴重なアドバイスを頂きました。あわせて厚く御礼申し上げます。

山吉一成

登戸混声合唱団

2011.7現在

【ソプラノ】



市岡美奈



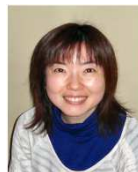
上原勝枝



勝裕智賀子



須山久美子



関戸 優



長沼萩江



檜崎紀子



花島佳子



平原みち子



宮下とも子



渡部信子

【アルト】



安藤順子



河西祥子



柴田牧子



島田春江



内藤しな子



中場裕子



根村道子



松本伸子



松本寛子



森川順子

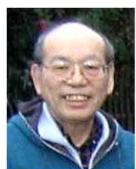


吉田ヒサ子

【テノール】



小口武人



小島 修



西田 誠



野村勇雄



松村憲一



安川秀彦

【バス】



今村勝行



追川 誠



小野博茂



河野憲哉



高野晴行



小森善次郎



柴田勇作



清水義昭



高橋生郎



長沢真一



藤原雅威



細野文夫



宮村 寛



山吉一成